



あまがさき子ども・子育てアクションプラン ～「働く」も「子育て」も応援するまち～

令和7年度実施項目等

令和7年12月26日

これまでの取組の振り返り



- ・「働く」も「子育て」もしやすいまちを目指して、3年間で40のアクションに集中的に投資する「子ども・子育てアクションプラン」を令和5年度に取りまとめ、**子育て支援策の充実に取り組んできました。**
- ・令和7年11月末までの取組状況は、次のとおりです。（令和8年度以降に実施予定の項目含む）

子育て支援策	取組状況
I 家計をサポート！（経済的負担の軽減）	7項目中 7項目が達成・達成見込
II ゆとりをサポート！（時間的負担の軽減）	10項目中 6項目が達成・達成見込
III 安心をサポート！（心理的負担の軽減）	16項目中16項目が達成・達成見込
プラス1（積極的な情報発信・まちの魅力化）	7項目中 7項目が達成・達成見込

**40項目中
36項目が
達成
または
達成見込**

- ・令和7年度は、11月末までに、「**子ども医療費助成の18歳までの拡充**」や「**病児保育の充実**」、「**妊婦健診の費用助成の拡充**」などを実施済み。
- ・令和8年度に「**児童相談所の設置**」や「**学びの多様化学校の設置**」などを実施予定です。
- ・アクションプラン**40項目**のうち、**36項目**が「**達成**」または「**達成見込**」であり、残り**4項目**が**達成**に向けて「**継続して取組中**」または「**検討中**」となっています。



令和7年11月末までに実施した主な項目



■ 保育料の引き下げ

令和6年4月から、阪神間他都市と比較して高額となっている保育料区分の保育料を阪神間**他都市水準以下に引き下げ**

■ フリースクール等の利用者への補助

不登校によりフリースクール等を利用している児童生徒に対して、令和6年4月分から**利用料の一部補助を開始**

■ 低所得世帯向け初回産科受診料・新生児聴覚検査の費用助成

低所得世帯等を対象に、令和6年4月に遡って**検査費用の一部助成を開始**

保育料引下げの概要

階層	従前負担額	軽減後負担額
D10	月額93,600円	月額 76,100円
D9	月額72,000円	月額 65,500円

※所得に応じて保育料区分を設定（A,B1,B2,C1,C2,D1～D10階層）
※D8階層以下の保育料は、これまでに見直しを実施

尼崎市の**市民税非課税世帯・生活保護世帯**のみなさまへ

令和6年7月
スタート

新生児の
聴覚検査費用を
助成します



聴覚検査を
受けましょう

生まれつき、耳の聞こえに何らかの障害を持つ赤ちゃんは1,000人に1～2人といわれています。赤ちゃんに聞こえにくさがないかを早期に見出し、適切な療育等を受けることで、赤ちゃんのこことばやコミュニケーションの発達に大きな効果を期待することができます。また、検査で異常がなくても、耳の聞こえについて気になるときは医療機関に相談しましょう。



■ 子どもの医療費助成の18歳までの拡充

市内に居住する子どもの医療費助成の対象を**18歳まで拡充するとともに、小学1年生～中学3年生の一部自己負担額の軽減**を実施

■ 妊婦健診の費用助成の拡充

妊婦健診にかかる超音波検査費用助成を6回から**14回に拡充し、出産を控える世帯の経済的負担を大幅に軽減**





■ 保育所待機児童ゼロの実現 進行中

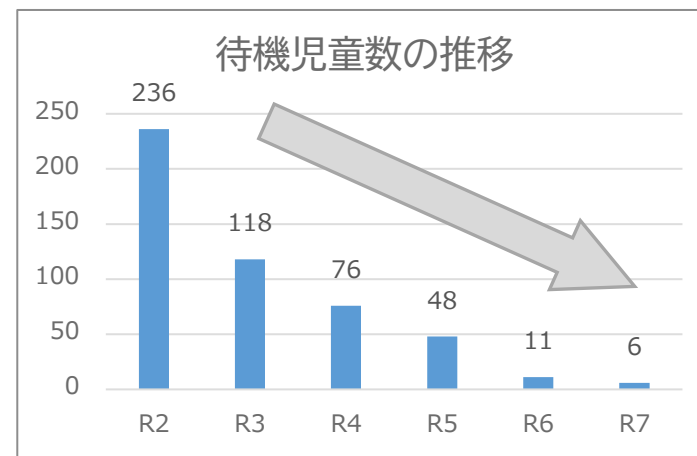
- ・ 令和7年4月1日時点の待機児童は6人となり、さらに減少
- ・ 待機児童ゼロを目指し、保育補助者の配置補助（令和6年4月～）、就労希望者向けの保育業務体験（令和6年6月～）など **保育士の確保・定着化につながる施策を実施**

■ 児童ホームでの連絡アプリ導入

令和6年度の2学期から、児童ホームにおいて児童の**入退室管理**や**施設との連絡**などを行うシステムを導入

■ 児童ホーム開所時間の19時までの延長

保護者の多様な働き方に対応するため、令和6年4月から児童ホームの開所時間を**19時まで延長**





■ 病児保育の充実

令和7年10月から、病児保育のさらなる充実を図るため、保育者が自宅まで訪問する**訪問型病児保育サービスを導入**



■ 児童ホーム等への昼食配送

令和7年度から、夏休み等の学校長期休業期間中に児童ホーム等に**昼食用弁当を配送するサービスを導入し、家事負担を軽減**





■産後ケア事業の拡充

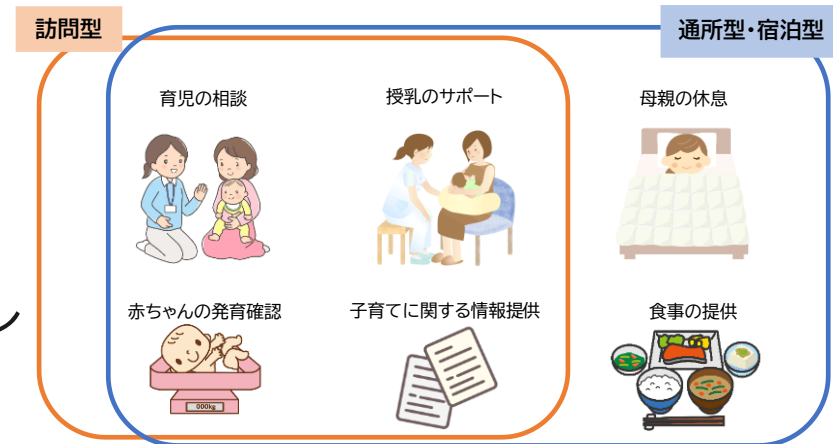
令和6年7月から、産後の身体的回復や育児不安の軽減のため、**日帰りや宿泊で休息できるサービス**を新設。令和7年度からは、産後ケアを希望する全ての方が利用できるよう対象者を拡充

■子育て家庭のショートステイ事業の拡充

令和6年7月から、育児への不安や子育ての負担を軽減するため、**地域の里親を活用したショートステイ事業**を実施

■スクールソーシャルワーカーの全中学校校区への配置

- ・学校における福祉的な課題に対応するため、スクールソーシャルワーカーを**順次増員(R5=10名・R6=13名・R7=15名体制)**





■ 障害のある児童生徒の受入体制の充実

- ・ あまよう特別支援学校に在籍する児童生徒が、保護者の常時付き添いがなくとも、安心して学校生活が送れるよう
看護師による医療的ケア体制を充実化



■ 学校環境のさらなる充実

これまでから取り組んでいる学校トイレの洋式化やエレベーターの設置に加え、体育活動や部活動等における熱中症予防や、災害時の避難所環境の向上に向けて、計画的に**学校体育館にエアコンを設置**
(令和7年度は2校に設置、1校の設計を実施)





■子育て世帯に向けた住宅確保の支援

「**子育て世帯向け住宅施策パッケージ**」を令和6年1月にとりまとめ、**賃貸住宅への住替支援**（25万円助成）や、**新築・中古の戸建て住宅の取得支援**（最大200万円助成）などの取組を実施

賃貸住宅への住み替え支援

項 目	R 6実績	R 7申請状況 (11月末時点)
申請件数	109件	160件
世帯の種類	若年夫婦世帯 66件 子育て世帯 43件	若年夫婦世帯 100件 子育て世帯 60件
転入人数	合計273人	合計377人

戸建て住宅の取得支援、子育て支援施設の開設支援

事業名	R 6 申請実績	R 7申請状況 (11月末時点)
新築・中古戸建住宅 取得補助事業	【新築】 2件 【中古】 1件	【新築】 33件 【中古】 6件
子育て支援施設開設 費用補助事業	【新規】 3件	【継続】 3件

■駅周辺での子育て情報等の発信

駅周辺におけるエリアブランディングにあわせて、令和6年6月から「**アマのうわさ**」を活用した情報を発信





■子育て情報発信サイトの作成

令和6年10月から、市内の子育てに関する情報などを積極的に発信するための**子育て情報発信サイト「AMANISM with Kids」**を公開



■子育て応援企業表彰制度の創設

職場環境の改善や福利厚生の充実など、企業独自の「仕事と子育ての両立支援」を積極的に実施している**企業を表彰する制度を新たに創設**





令和 8 年度の主な実施項目



■ 児童相談所の開設（いくしあとの一体的な支援）

こども一人ひとりに寄り添った予防から自立までの一貫した支援を実現するため、児童相談所を開設します。また、「里親支援センター」の設置により、里親支援事業等を推進します。さらに「24時間子育て電話相談窓口」の運用を開始します。



■ 学びの多様化学校の設置

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策・支援の一つとして、多様性を尊重する学びの場を整備するため、兵庫県下の公立学校で初となる学校型の「学びの多様化学校」を開校します





■女性の多様な働き方支援

女性の就労支援や再就職支援、希望に応じた柔軟な働き方やキャリアアップへの支援など、
**「働く」と「子育て」の両立を支援するため、
コワーキングスペースを設置・運営します**



■多子世帯向け負担軽減策の実施

令和7年10月から実施している訪問型病児保育サービスについて、子育てに関する負担の大きい多子世帯の負担軽減を図るため、**第3子以降の会費を無償化**します





■ 障害のある子どもの受入体制の充実

- ・ 令和8年度から保育所、幼稚園等での特別な支援が必要な子どもの受入体制を充実化

■ スクールソーシャルワーカーの全中学校区への配置

- ・ 令和8年度には、**全市立中学校区（17校区）に1名**を専任配置し、**支援体制を更に強化**

■ 学校環境のさらなる充実

令和8～10年度の3年間で、**全学校の体育館等に空調設備を整備**（令和8年度は中学校15校、高等学校3校を整備）



No.	達成 or 達成 見込	継続 取組 項目	項目
1	○		保育料の引き下げ
2	○		フリースクール等の利用者への補助
3	○		子どもの医療費助成の18歳までの拡充
4	○		低所得世帯向け新生児聴覚検査の費用助成の実施
5	○		低所得世帯向け初回産科受診料の費用助成の実施
6	○		妊婦健診の費用助成の拡充
7	○		多子世帯向け負担軽減策の実施
8		○	保育所待機児童ゼロの実現・病児保育の充実
9	○		児童ホーム開所時間の延長
10		○	児童ホーム待機児童ゼロの実現
11	○		児童ホーム等への昼食配送
12		○	育児休業中の児童ホーム利用条件の緩和
13	○		母子手帳アプリの機能拡充
14	○		児童ホームでの連絡アプリの導入
15	○		保育所、幼稚園、学校の諸手続きのオンライン化
16	○		児童ホーム・こどもクラブのWi-Fi整備
17		○	学校諸費と給食費の徴収システムの改善
18	○		産後ケア事業の拡充
19	○		24時間子育て相談窓口の開設
20	○		スクールソーシャルワーカーの増員

No.	達成 or 達成 見込	継続 取組 項目	項目
21	○		子どもに関する各種データ連携による支援の強化
22	○		児童相談所の開設
23	○		里親制度の普及・啓発、里親による支援の充実
24	○		母子保健と児童福祉を一体的に対応するセンターの設置
25	○		困難な状況にある子どもの居場所支援の実施
26	○		里親を活用した子育て家庭のショートステイ事業の実施
27	○		学校環境の整備・充実（トイレの洋式化、体育館空調整備等）
28	○		学校ICT環境の整備
29	○		医療的ケア児や特別な支援を必要とする子どもの受入環境の充実
30	○		スクールロイヤーの設置
31	○		不登校児童生徒の校内居場所の設置
32	○		「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）」の設置
33	○		日本語ボランティアの学校派遣の試行実施
34	○		子育て情報発信サイトの作成
35	○		図書館機能の充実（北図書館の再整備など）
36	○		屋内遊戯施設「Moovviあまがさき」等におけるイベントの充実
37	○		都市公園の充実（インクルーシブ公園の整備など）
38	○		子育て世帯に向けた住宅確保の支援
39	○		駅周辺での子育て情報等の発信
40	○		仕事と子育ての両立支援（育休取得促進、企業表彰制度の創設、女性の多様な働き方支援）



40項目のうち、**36項目が達成**、または達成見込となりました

- 令和7年度末までに、40項目中、36項目について達成または将来的に達成見込となりました
- 令和8年度以降に取り組む項目については、予定どおりの達成に向け着実に進めていくとともに、現在も検討・調整が続く4つの項目については、実現に向けて引き続き取り組んでまいります

令和7年度までに達成済みとなった主な項目

➤ 経済的負担の軽減

「子ども医療費助成の18歳までの拡充」や「妊婦健診の費用助成の拡充」 など

➤ 時間的負担の軽減

「病児保育の充実」「児童ホーム等への昼食配送」 など

➤ 心理的負担の軽減

「産後ケア事業の拡充」「医療的ケア児等の受入れ環境の充実」 など に取り組んでまいりました

令和8年度に実施予定の主な項目

- 令和8年度は、「児童相談所の開設」や「学びの多様化学校の設置」などを進めてまいります



① No.8 保育所待機児童ゼロの実現

令和7年度の待機児童は「6人」まで減少しており、達成に近づきつつあります。令和8年度以降も待機児童ゼロの実現に向け、引き続き取り組みを続けます

② No.10 児童ホーム待機児童ゼロの実現

様々な取組を進めた結果、アクションプラン策定からの2年間では140人の定員増を達成したものの、申請者数の増加により、待機児童の解消に至っていません。令和8年度には、校舎内の教室の活用によって定員増を図り、引き続き待機児童の解消に努めます

③ No.12 育児休業中の児童ホーム利用条件の緩和

児童ホームの利用ニーズが年々高まり、待機児童が生じています。利用条件の緩和に向け、まずは待機児童の解消に取り組み、待機児童が減少した後に、改めて取組を進めていく予定です

④ No.17 学校諸費と給食費の徴収システムの改善

学校諸費と学校給食費の徴収については、あまがさき共創DXプラン2.0を踏まえつつ、検討・取組を進めます

➤ 今後もアクションプランを着実に遂行し、「働く」も「子育て」もしやすいまちの実現に取り組めます